

## 歴代学部長

創設10周年  
にあたって

第三代 学部長

櫛 彰



愛知学院大学薬学部が創設10周年を迎えた。まずは、お祝いを申し上げたい。正直なところ、月日の経つのは早いものだというのが実感である。私が着任した平成17年の楠元キャンパスは、薬学部棟が建設途中であり、2号館(短期大学部)に間借りしていた。10月に薬学部棟が完成したので、7階の新しい研究室に移り、一日中、一人でラボのセットアップをしていたことが思い出される。

平成23年4月より薬学部長を拝命しているが、先輩諸氏がこれまで築き上げてきた実績を礎として、本薬学部が一層の発展を遂げるように微力ながら邁進しているところである。手前味噌になるが、現在まで本薬学部は順調に推移しており、関係各位のご支援・ご協力に感謝したい。

近年、医療の急速な進歩と医薬分業の定着により、薬剤師を取り巻く環境は大きく変化した。その結果、高度な専門知識と技能を備え、医療人としての使命感や倫理観を持った薬剤師の養成が求められている。これに対応すべく開始された6年制薬学教育は、我が国の薬学史に残る「平成の大改革」である。

本薬学部は、「医療を協働の場として人々の健康維持と医療の発展に積極的に貢献し、共創を通じて未来を開拓する医療薬学専門人の養成」を教育理念とし、平成17年4月に楠元キャンパスに開設され、翌年に6年制に全面移行した。平成24年には、より専門的な基礎薬学研究者や医療薬学研究者を養成するために大学院薬学研究科が設置され、また、医療生命に関した先駆的プロジェクト研究を行う医療生命薬学研究所も設置された。今後、社会貢献活動や国際交流活動の充実が望まれる。

また、薬学教育の更なる充実と各大学の独自性を図るため、薬学教育モデルコアカリキュラムの改訂が行われ、平成27年度から実施される。現在、カリキュラムの改訂作業を行っているところである。

ところで、現在使用されているグレゴリオ暦は、地球が太陽の周りを回る周期を基にして作られたユリウス暦を改良した暦である。これからすれば、一定の時間は一定の長さである。しかし、人間は年齢や状況によって時間の感じ方がずいぶん異なる。一説に、一定時間に対する1歳児の長さの感覚を1とすると、2歳児は1/2、3歳児は1/3・となり、50歳では1/50になるそうだ。実際は、高校時代までは時間に縛られ、社会に出てからは時間に支配される。唯一、人間が時間を思いのままに出来るのが大学・大学院時代である。学生諸君には、今この時に勉学・研究を通して、真理が抽出されてくる瞬間や新たな発見が導かれる過程を楽しんで欲しい。この時代に「夢」を追ってみることを進める。

卒業生の大部分は医療関連の職場で働いており、その社会的役割と責任は非常に重い。一人ひとりの活躍が薬学教育制度改革の成功という社会的評価をもたらし、6年制薬学教育の「歴史」を創ることとなる。自信を持って誠実に仕事に励んで貰いたい。

最後に、愛知学院大学薬学部は完成年度を過ぎ、いくつかの講座では教授も代替わりした。創生期から成熟期へと移行する時期である。愛知学院大学薬学部の更なる発展を願う。